

## 日本常民文化研究所 創立 100 周年記念事業

### 財団法人時代の日本常民文化研究所 メンバーからの聞き書きの実施

田上 繁

財団法人日本常民文化研究所が神奈川大学に 1982 年に招致されて、本年度ですでに 34 年を迎えようとしている。本研究所は、もともと 1921 年に渋沢敬三によって設立されたアチックミュージアムソサエティを前身としており、太平洋戦争中の 1942 年に日本常民文化研究所と改称され、戦後 1950 年に財団法人日本常民文化研究所となった。したがって、常民研の歴史は、アチック・ミュージアム時代、財団法人時代、神奈川大学時代の三つの時期に分けられる。

当然ながら、本学に移管されたあとも渋沢翁の理念を受け継ぎ、国内外の資料調査や研究活動を



写真1 宝島珊瑚礁上にて薩南十島調査団集合写真（アチック写真：河 1-26-2）

行いながら、収集資料の公開や研究成果を広く発信する活動を展開してきた。長い歴史と実績をほこる常民研の活動も、来たる 2021 年にはアチックミュージアムソサエティの開始以来 100 周年を迎えることになる。その節目の年を目標に、去る 2015 年度から本格的に 100 周年記念へ向けた準備に取り組んできた。本事業を推進するためには、まず最初に 3 つのそれぞれの時期における関係資料の収集と関係者からの聞き書きを行う必要がある。

そこで、2015 年度には、財団時代の元メンバーである江田豊氏と速見融氏の自宅をそれぞれ訪問し、当時の貴重なお話をおうかがいしたが、本年度も同じく財団時代の元メンバーである五味克夫・三代子ご夫妻を訪ねて聞き書きを行った。ご夫妻は鹿児島市に在住されているため、2016 年 6 月 4 日・5 日の日程で同市へ赴き、ご夫妻に宿泊ホテルまでご足労いただき、ロビー



写真2 財団法人時代の資料を拝見しながらの聞き書き調査（2016 年 6 月）



写真3 聞き書き調査を行う常民研所員（2016 年 6 月）

においてお話をうかがった。この調査には、創立 100 周年記念事業担当の前田禎彦、安田常雄、田上繁の 3 所員と職員の越智信也の 4 名が参加した。ご夫妻によるお話の内容は多岐にわたり、当時、研究所の事業を主導していた宇野脩平氏の活動方針や各メンバーの役割など、所員であるが故に知りうる興味深い内容を語っていただいた。

本年度には、もう一方元メンバーである中地昶平氏からの聞き書き調査を予定していた。ところが、和歌山県に居住されていることは把握できていたが、詳細が不明であったためうまく連絡がとれず、電話が通じたのは 2017 年 2 月のことであった。奥様が電話に出られ、中地氏が数週間前に他界された事実を知らされた。お悔やみを申し上げることしかできなかったが、その折り、奥様から「常民研の方から連絡があったことを喜んでいることと思います」といっていただいたことに、救われる気持ちがしたものである。と同時に、強い思いを持たれる多くの関係者のためにも、常民研の歴史を一日も早く検証することの重要性を再認識させられた。